

講義名	健康・スポーツ関連企業分析			
担当教員	山口 泰雄			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	演習	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>わが国は、高度情報化、少子高齢化、人口減少という社会課題を持っているが、このような社会課題を克服し、持続可能な社会づくりを進めることが求められている。このような社会課題の克服を進めるうえで、アクティブライフ（主体的・活動的・健康的な生き方）を実践できる人口の拡大が求められている。</p> <p>このような背景の中、健康・スポーツ関連企業の発展と市場拡大が予測される。それゆえ、健康・スポーツ関連企業の現状と今後の動向を探ることは、就職活動並びにスポーツ界の将来展望を考えるうえで、重要である。本講義では、さまざまなグループワーク手法を導入し、学生が主体的に学び、コミュニケーション力とプレゼンテーション能力を高めながら、健康・スポーツ関連企業の現状を理解し、分析力を高めることを目的とする。</p>				
到達目標				
<p>本講の到達目標は、次の3項目である。</p> <p>知識・理解： 健康・スポーツ関連企業の事業やマネジメントの用語や実態を理解できる。 思考・判断： 健康・スポーツ関連企業の事業やマネジメントの強みと弱みを判断できる。 関心・意欲・技術： 健康・スポーツ関連企業の事業に関心を持ち、主体的な探求により、その成果をプレゼンし、議論ができる。</p>				
提出課題				
<p>毎回の授業において、その日に学んだことを振り返り、知識や感想をレスポンスにより、提出する。グループワークは、その都度、授業の終わりに提出する。</p> <p>最終レポートとして、グループで取り組んだ企業分析資料(PPT)と個人の学びと感想に関するレポート(1枚)を合わせ、提出する。</p>				
課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック				
<p>前回、提出されたレスポンスは、授業はじめての振り返りにおいて、講評する。また、グループワークのプレゼンは、授業の終わりに、強みと弱みを講評する。</p>				
評価の基準				
<p>プレゼン(30%)、最終レポート(30%)、出席・受講態度・リーダーシップ(40%)。講義中の質問と教員からの質問へのGood Answerは加点する。</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<p>遅刻者は、開始後15分以内とし、静かに着席すること。遅刻頻度が多い場合は、受講態度で減点する。</p>				

教科書				
.しない.				
プリント資料及び参考文献				
<p>適宜、資料を配布する。参考文献は、「スポーツ白書-2030のすがた-」(笹川スポーツ財団)。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、ミニ講義 2. グループワーク (KJ法・ブレインストーミング) 3. KJ法のプレゼン&他者評価 4. POCAサイクル&大学スポーツ 5. POCAサイクルのプレゼン・他者評価 6. スポーツ用品産業&SWOT分析 7. SWOT分析のプレゼン・他者評価 8. スポーツ施設・空間産業&SWOT分析 9. 向上・プレゼン・他者評価 10. ゲスト講師 11. フィールドワーク(アシックススポーツミュージアム) 12. 同上(2コマ分) 13. 最終プレゼンの説明・プレゼン準備 14. プレゼン準備(30分)・プレゼン 15. プレゼン・まとめ 				
授業形態(アクティブ・ラーニング)				
	ア：PBL(課題解決型学習)		イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	
<input type="radio"/>	ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク	
<input type="radio"/>	オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)			
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>予習：2時間くらい 次週のシラバスを確認し、参考文献・ネット等でその内容を事前に把握する。</p> <p>復習：2時間くらい 授業における配布資料を再度、目を通し、必要なポイントを確認する。</p>				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>本講義を通して、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学部のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。</p>				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
<p>PPTによるプレゼンテーションにおいては、質問に対して丁寧かつ冷静に説明し、コミュニケーション能力を高める。また、グループワークにおいては、リーダーシップとフォロワーシップの開発を行う。</p>				
実務経験の有無及び活用				
<p>市民マラソンの運営、社会調査の実施と分析、ジュニアスポーツリーダー講習会および高齢者スポーツイベントの運営など。</p>				
備考				